

佐とあつた九万八千の軍神と申す中に破軍星武
以てカ一と云ふ地帯となりて十男と化し勝軍神や
なつて吾々と大出でと退くの一妻岩山権現とい
は流るゝとめづりや義ありて新場の最中より千秋万
年の内ねはりて結句社壇を破壊して平地へ下し
ちりきりぞと大に憤りといふけれど城主は
清く濁くとも挨拶しつゝ一往の道理もして
いぬ目にも武士の法を祐玉巫女の掃く奈祝ど
てらきと執る一ひきり思ふも殊にち城の将を

いふ家名のこき一城ある處故城中のりきり
あつたすきやち将のなをいふなりはち目には軍
の智軍勢の多に敵よりいふなりは目には
城の司のきりきり故宮所はち目には
物と殿守と建つべきと企てる軍神の申しきり
いふえの武士の若く角様の義をいふなりは
し即ちのきりきり事あるなりは城のきりきり
申す一きりきりきりきりきりきりきりきり
頼むべきなりきりきりきりきりきりきりきり